

平成14年7月1日

(第54号)

鵜戸

暑中お見舞い申し上げます

鵜戸神宮ホームページ <http://www.m-surf.ne.jp/~udo/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

鵜戸神宮への誘い、自然との調和



宮司 杉田 秀清

宮崎平野を南下して、ピロロ樹の繁る青島をすぎると急な山坂にかかる。登りつめて堀切峠に出ると、正面は海。眼下に太平洋の海原が広がり、フェニックスの樹葉が南国の陽射しによく似合う。

この峠から日南市まで、国道二二〇号線は約四〇kmにわたり海岸と接して、海岸は変化に富んだ波状岩(鬼の洗濯岩ともいわれる)や岩と砂浜が広がる。沿道には、フェニックス、龍舌蘭、バナナ、ワシントニアパーム、女王椰子、蘇鉄などが植栽され、ツワブキやコバノセンナの黄色い花、ハイビスカス、ブーゲンビリア、車輪梅など四季折々の花が咲き眼を楽しませる。景色と眺望はまことに抜群

である。

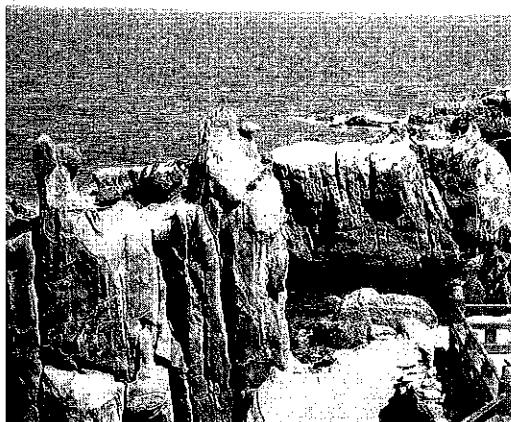
昭和三十七年、皇太子同妃両殿下(天皇 皇后両陛下)がNHK朝のドラマで放映されて以来、宮崎、並びに日南は観光地としてますます脚光を浴び、新婚旅行のコースとして、カップルで溢れ昭和五十年代にはピークに達した。こどものくに、サボテン公園、鵜戸神宮がそのコースだった。ここまで鵜戸に至る景観と時の流れを記したが、この日南海岸のコースそのものが「鵜戸山詣」の伏線となり参道の役割をしているかも知れない。鵜戸に至ると、鵜戸神宮は海に面し、社前には奇岩が重なり又海中より聳えて、絶えず波濤が打ち寄せ、岩を噛み、波は泡沫となり飛び散る。社殿は自然の大洞窟の中に鎮まり、太古この霊窟で「山幸彦」と海宮の姫、「豊玉姫」との間にお誕生になられた「鵜戸草葺不合尊」を主祭神としている。御承知の通り参道の八丁坂の石段は人々の往還で中央部が凹んでいる。

と、鵜戸神宮は海に面し、社前には奇岩が重なり又海中より聳えて、絶えず波濤が打ち寄せ、岩を噛み、波は泡沫となり飛び散る。社殿は自然の大洞窟の中に鎮まり、太古この霊窟で「山幸彦」と海宮の姫、「豊玉姫」との間にお誕生になられた「鵜戸草葺不合尊」を主祭神としている。御承知の通り参道の八丁坂の石段は人々の往還で中央部が凹んでいる。

鵜戸神宮は、こんなかけがえない自然と、古い歴史を持つている。観光にみえた人々が、神域に一歩足を入れてこの自然と調和した佇みや厳肅さの中にかかを感じていただければ幸いです。

と、清らかさが、「観光客」の気分を、おのずから「参拝者」としての心と気持ち

へと昇華させてくれることを願っている。



洞窟前の奇岩



八丁坂

例祭 齋行

二月一日、午前十時三十分より、例祭が厳肅かつ盛大裡に齋行された。

当日は、晴天に恵まれ責任役員、氏子・崇敬者総代をはじめ県内外の各神社宮司、全国各地の崇敬者の参列を賜った。

祭典に先立ち、福岡藩伝柳生新影流兵法 第十四代宗家、長岡鎮廣氏他により連綿と受け継がれてきた兵法が奉納された。

祭典は、宮司の祝詞奏上に続き本庁幣が献せられ、献幣使(高千穂神社宮司の後藤俊彦氏)の祭詞が奏上された。この後、舞楽「蘭陵王」が奏舞され、滞ることなく終了した。

奉祝行事として二月一日には、第三十回鵜戸神宮奉納四半的大会が儀式殿前広場にて開催され、五十九チーム、二七五名の参加があり和やかな雰囲気の中で競技が行われた。



四半的大会

尚、四半的のいわれは、的場の距離が四間半、使用する弓、矢共に四尺五寸の長さ、的が四寸五分の大きさで全部が四・五となっておりるところから来ている。当神宮は、足利時代に相馬四郎義元が「念流」を、

愛洲移香が「陰流」を創始したと伝えられ、念流、陰流の剣法発祥の地とされていることから、二月三日には、第四十九回剣法発祥鵜戸山顕彰剣道大会が開催された。雨の為、会場を当神宮より日南市総合運動公園多目的体育館に移し、県内各地から団体戦に一五チーム、個人戦に一一四名が出場し熱戦を繰り広げた。



長岡氏による兵法



剣法発祥鵜戸山顕彰剣道大会

祈年祭 齋行

今年の五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が、二月十七日厳肅に齋行された。

農業関係者等の多数の参列を賜り、午前十時三十分より宮司以下祭員によって奉仕され、宮司祝詞奏上の後、「浦安の舞」を奉奏し、参列者が玉串を捧げ豊作を祈願した。

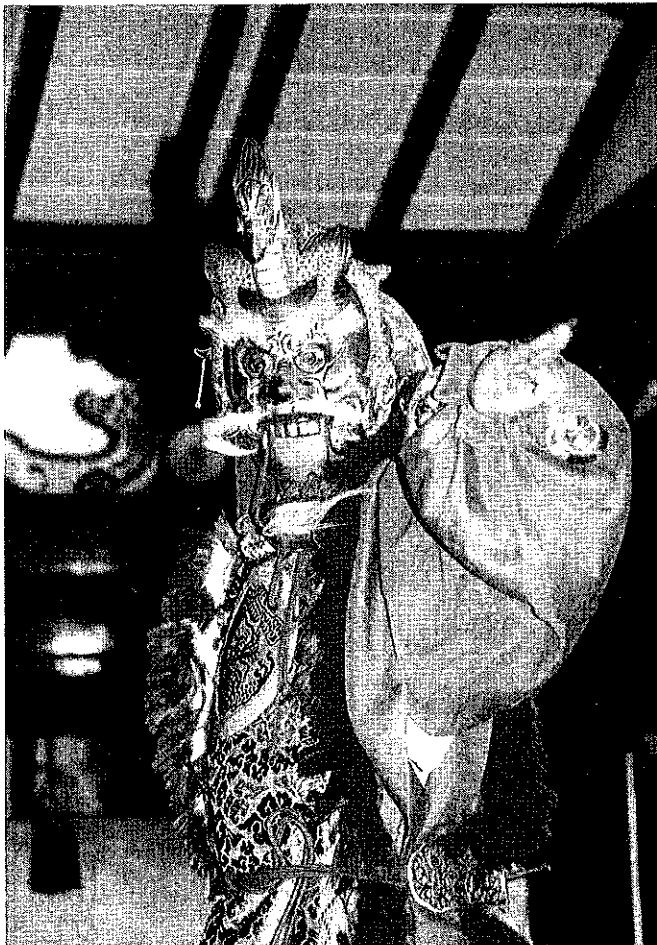
この祭典は、農耕を主としてきた日本人にとって、古代より行われてきた大切な祭である。



宮司祝詞奏上



シャンシャン馬道中唄



蘭陵王

かつて旧暦三月の祭礼日に大漁、五穀豊穡、商売繁盛等を祈願する人々で賑わっていたと伝えられる縁日大祭が三月二十二日、二十三日に執り行われた。

二十二日は、午前十時三十分より多数の参列を賜り、「春の縁日大祭」が斎行された。

奉祝行事として午前と午

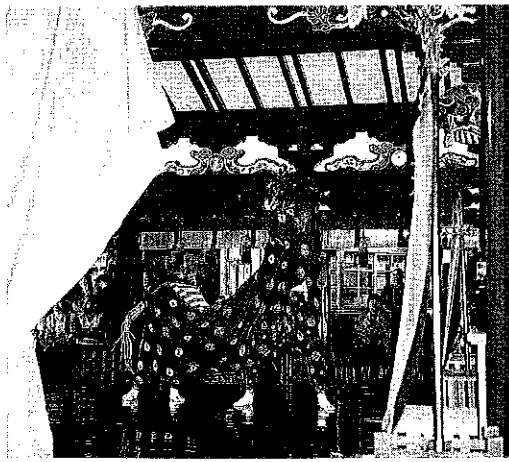
春の縁日大祭斎行

後に、日本民謡協会日南支部会員による「シャンシャン馬道中唄」、当宮職員による「浦安の舞」、「鶺鴒さん獅子舞」、舞楽「蘭陵王」が神前にて奉納され、参拝者も興味深げに見入っていた。

又、参道では両日、地場産品フェアが開催され賑わっていた。



浦安の浦



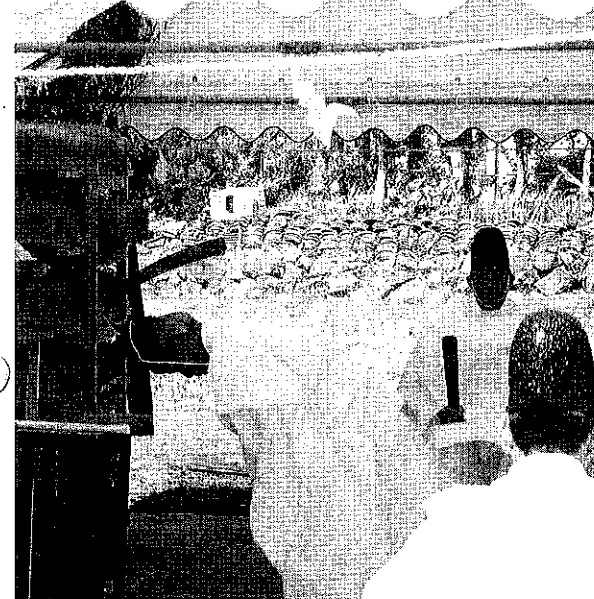
鶺鴒さん獅子舞



播種祭



御神田清祓祭



御田植祭



御神田月次祭

日南市大浦の氏子、泉昭信氏、関屋勝氏、増竹義也氏の休耕田を借り受けた約一反の御神田において、三月十七日午前十時三十分より御田植祭が斎行され、責任役員、氏子をはじめ地元小中学生の参列を賜り、古式ゆかしい伝統行事が行われた。

この日に向け二月には播種祭が斎行され、総代の田

中厚氏がコシヒカリともち米の籾を蒔き、早苗の生育にあたられた。三月には御神田清祓祭が斎行され、準備が進められてきた。

祭典では、田の神の御降臨を迎え斎主が祝詞を奏し、稲の順調な生長を祈願。参列者も玉串を奉奠し、豊作を祈念した。

田植は「お田植、始めませ」の掛け声を合図に、御

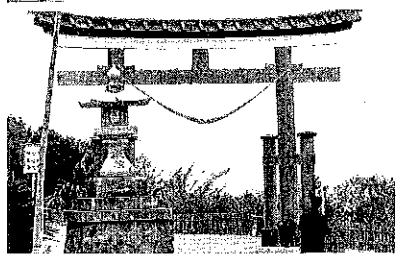
田植が始まり、編みがさ、かすりに赤いたすき姿の早乙女、ハッピー姿の小中学生や区民の方々が、ひざ下までつかりながら苗を丁寧に植えていた。

今後は、稲の生長を祈願する為、七月の抜穂祭まで毎月、御神田月次祭が斎行される。

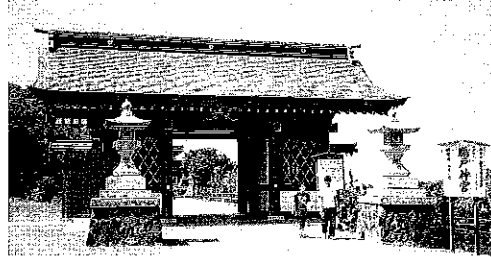


田植え

御田植祭斎行



(2)



(1)

境内の移り変り
昭和四十七年に神門(1)が新築されたが、以前は同じ場所に両部鳥居(2)が建てられていた。

境内の移り変り

31日	31日	27日	23日	15日	7日	6日	3・4日	1日	27日	17日	14日	13日	2日	1日	23日	15日	8日	1日	3日	1日	21日	10日	1日
引大式 引き続式	15時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	9時30分	9時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	午前	10時	10時
		中	末	末	末	立	中	中	十	末	皇	一	一	一	九	八	八	八	八	七	七	七	七
除夜祭	大祓式	煤払祭	天長祭	門守祭	火産霊神社例祭	月次祭	縁日祭	月次祭	月次祭	福智神社例祭	神嘗祭	皇嘗祭	龜山神社例祭	縁日祭	月次祭	秋分祭	敬老祭	縁日祭	月次祭	月次祭	月次祭	月次祭	月次祭

平成十四年壬午年鵜戸神宮御神事一覽表(七月〜十二月)

別当宮司先賢慰霊祭齋行

去る五月十七日午前十一時より、鵜戸山別当墓地において、歴代別当宮司遺族をはじめ多数の参列を賜り、別当宮司先賢慰霊祭が厳かに斎行された。
同祭は、当神宮の特殊神事で神仏合同の慰霊祭とされており、宮司祝詞奏上の



後、願成就寺住職 川崎光俊氏(日南市)、王楽寺住職 甲斐裕隆氏(宮崎市)の経が奏上され、御詠歌が流れ、遺族は故人を偲び、鵜戸山の長い歴史に思いを巡らした。尚、別当墓地への周辺道路も整備されており参拝しやすくなった。

シヤンシヤン馬道中唄全国大会開催

昭和三十年に作曲され愛唱されてきた、シヤンシヤン馬道中唄の第十六回全国大会が、三月二十四日に当神宮儀式殿にて開催され、宮崎県西部市の斉藤智美さんが、晴れのグラントロピオンに輝いた。

今年には、県内はもとより東京都など全国各地から四六二名が参加。二十三日に日南市文化センターで予選が行われた。
決勝大会は、年齢ごとに分けられた七部門に二〇〇名が出場。部門ごとに優勝をめざし、「鵜戸さん参りは春三月よ」と太鼓や三味線、尺八などに合わせ、張りのある声を披露した。さらに、各部門の優勝者がグラントロピオンの座を競った。
会場には、朝早くから多くの民謡愛好家であふれた。

シヤンシヤン馬道中再現

と埋まり、唄の終わるたびに大きな拍手を送っていた。又、当地方の風習で、明治の中頃まで行われていた、シヤンシヤン馬道中の鵜戸さん詣りが再現された。
今年も、県内外から十一組の応募があり、三組の新婦さんが選ばれた。
姿で本殿にて正式参拝の後、歩きたびにシヤンシヤンと軽く鳴る鈴をつけた馬に花嫁が乗り、花婿が手綱を引いて境内を一周した。
参拝者は、神妙な面持ちで手綱を引く花婿と、笑顔でたやさない花嫁に、大きな拍手を送り祝福していた。



石碑 燈籠奉納

延暦年中に築かれたと伝えられる鵜戸山八丁坂。この由緒が書かれた石碑が奉納され、多くの参拝者の眼をひくようになった。又、鵜戸の大神様の御恵に感謝され燈籠の奉納があり、それぞれ奉告祭が厳肅に齋行された。
齋行日、奉納者は次の通り。

平成十三年十一月二十八日 鶴田久智氏、宇佐美和美氏 (鵜戸)より八丁坂由緒の石碑一基。(1)

平成十四年一月二十七日 有限会社石井商店 石井興八、石井幾二、石井太三、石井勝範各氏(日南市)より燈籠一基。(2)



(1)

いさみ太鼓奉納



(2)

五月五日の子供の日、午前十時より、そろいの鉢巻ハッピ姿の子供たち五十名が、御本殿にて「いさみ太鼓」を奉納。鵜戸の大神様と祖先の恩とに感謝すると共に、無病息災を祈願した。

この「いさみ太鼓」は昭和五十一年に昭和天皇御在位五十年を記念して創作され、当神宮下の荒磯に打ちつけ砕け散る荒波の様子を、太鼓・笛・鈴で表現し、これに合わ

世子供獅が勇壮に舞っている。



境内の植物

リュウキュウアサガオ

海岸に生える一年生のつる草で、花は普通の朝顔と変わらないが、葉はハート

形をしている。花期は長く初夏から初冬にかけ咲く。



アヤメ

多年草で高さ五〇〜六〇センチ。五月に一本の花茎に一〜三の花をつけ、花弁

の基部に網目模様がある。葉の中央に筋がない。

